

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>認知症高齢者が小さな集団の中で自らが持つ生活能力を十二分に発揮して、最期まで自己の尊厳を保つ生活ができるように個別にケアプランを作成している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>月1回の職員全体の処遇会議、月1回のグループホーム会議、1日2回(朝・夕)のミーティングで再確認し、個々の利用者の生活向上などに反映される様取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>月1回理念に基づいた機関誌を発行し、家族に送付している。月1回「介護者の集い」を地域支援センター職員が中心となり開催、情勢に見合ったテーマに基づき事例・ディスカッションが行なわれている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日中、施設・柵等による困りはしていない。施設は住宅のなかにあり、近隣の住民や登下校の子供たちが通行しており、挨拶を交わすよう心がけている。又、過去には帰り道の分からなくなった入居者を地域の方が引率して下さったこともある。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>小学校の音楽会・運動会・野口まつり・敬老会に参加。秋祭りは子供みこしが園の前に来て入居者が楽しまれている。園の行事としては夏祭り・運動会・クリスマス会や年2回のクラシックコンサートに参加を呼びかけ、地域の方々との交流を深めている。</p>	<p>行事の時だけでなく、日常生活の中で地域の交流をしていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>今後は運営推進会議、勉強会への参加を依頼していく。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット定期的に配置交代し職員が全入居者の状況知り得る工夫をしている、ユニットで合同会議を月1回開く。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修としてADL研修開催。外部研修も積極的に参加、研修報告を全体会の場で持ちトレーニングの一環としている。		マニュアルを確立し、新人教育に活用する。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町グループホーム協会の勉強会を開催。会場は巡回制で、相互訪問等の活動も行なっている。		年1回総会開催と記念講演会、映画等開催。勉強会参加自主的に行なうよう支援している。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会の実施で職員間の交流を深めている。兵庫県民間社会福祉事業職員互助会に加盟し行事等参加、ストレス軽減を図る。		グループホーム自体での親睦又は積極的な悩みやストレス解消の機会をつくる。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回の人事考課、自己評価個別面接で職員個々の努力や実績を把握し、昇給等に反映させる。		個々の努力で自主研修に参加する職員には、勤務交代等で配慮する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約時に家族、関係機関から情報収集し記録する。入居直後は本人の様子、会話から求めていることを確認し、自分らしい生活が過ごせる様に援助する。</p>	<p>入居契約時の家族や関係機関からの情報と合わせて本人自身との会話や行動の観察によって得ながら本人へのケア、プランに反映させる。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約時に本人、家族から不安や疑問を丁寧に聞き取り、本人、家族の支援に役立てている。</p>	<p>入居後に起こった疑問や不安感について、その都度話し合い、解決策を見出す。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の状態と家族の思いを考慮して、サービス計画をたてる。出来る事と出来ない事を見極める。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>契約前に本人、家族にグループホームを見学してもらい、新しい生活の場を紹介している。入居当初は特に家族と連絡を密にし、本人の様子を伝える。在宅での様子を聞いて情報を得る。家族との関わりを密にする。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の準備、食器洗い、食器拭き、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ等声をかけ、職員と一緒にする。日常の会話、動作の中から人生の知恵を学ぶことも多い。</p>	<p>その人らしさを尊重し、得手不得手を見極め、日々の生活場面でこなしている。洗濯干し、洗濯たたみ、食器洗い、植木の水やり等、ささやかな達成感を共有している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にし、情報を共有。職員と家族が入居者の生活を共に支援している対等な関係を築いていけるよう、ケアプラン、モニタリングの説明の時に話し合っている。		介護者の集い、グループホーム運営推進会議等情報を共有し、関心を深める取り組みをする。家族が日常的な関わりを持てる様に積極的に支援する。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に情報交換を行い、家族と職員が良好な関係を築き、入居者の快適な生活を過ごせる様に支援する。具体的には、関係者を交えカンファレンスを開いて、理解を深めたり関係修復につながることもある。		様々な行事を通して入居者と家族が共に楽しむことが出来る場を提供している。日常的な関わりを通して、より良い関係を築いて行く為の努力を行なっている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人、知人の来訪を時間の制限なく自由に受け入れている。食事と一緒に摂れるよう希望に応じている。外出も自由。		施設内外の様々な行事を通して利用者がこれまで築いてきた馴染みの人、場所との関係が保てる様に支援している。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同志の関係を把握し、お互いに良い関係が保てる様配慮し、共に支えあいながら生活を楽しめるよう支援していく。		日常生活の中で共に取り組める作業を提供し、共に助け合い、生活を楽しめる支援を行なっている。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても家族に定期的に機関誌を送付し施設の近況・行事の案内をしている。		いつでも訪れる事が出来る様にし、継続的な関わりを断ち切らない付き合いを大切にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々にその人らしく暮らせるように本人の意向の把握に努め、情報を共有し職員間で話し合う。</p>	<p>一人一人の希望や意向を把握する為に職員が個々に聞き取ったことを個人ノートに記録し職員間で共有している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者の個人の理解を深め、自分らしく暮らせる様、プライバシーを考慮しながら家族と連携を取り、こだわりの物品、生活リズム等日々の生活に生かす工夫をする。</p>	<p>行事や日常生活の中で家族と連絡を密にし、これからの暮らしの改善に努める。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者の個別の意向に寄り添いながら、心身状態の変化、現存能力を観察し総合的に取り組みを行なう。</p>	<p>日々の記録や申し送り等により、現状を1日だけではなく、総合的に検討し、課題意識を持って取り組む。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々のミーティング、グループホーム会議で本人が自分らしく暮らせるための話し合いの場を持ち、変化に応じて介護計画の変更見直しを行なう。</p>	<p>日々の介護を慣れ合いにせず、初心に戻り学びの姿勢で望む。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>その都度変化に応じて職員間で話し合い、家族との連絡や主治医、訪看を含めた話し合いの中で、計画の見直しを行なっている。</p>	<p>利用者の細かな変化を見落とさず、記録、報告、話し合いをして、対応を臨機応変に行なう。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ユニット ・ は30㎡の広さがあり、本人とその同居人として2人で生活できる。同居人は介護保険で在宅のサービスを利用し現在2組の夫婦が利用している。</p>	<p>施設の行事にはグループホーム利用者も自由に参加している。</p>
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>ボランティアが中心となってしてくれる日々の行事に希望者を募って参加してもらう。外出頻度の高い方は職員の見守りの途中見失ったり、気づかなかった時に地域の協力を得ている。</p>	<p>月～木まで「のびのびルーム」という行事があり、利用者は選択して参加している。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>認知症に加え療養上の必要性の高い利用者、他利用者への暴力行為等ある方は、本人と本人を取り巻く家族、関係者、職員で話し合いより支援に結び付けている。</p>	
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>権利擁護、尊厳ある自立支援について法人全体で取り組んでいる。事業所の1つとして地域包括支援センターの委託を受けた地域支援センターのぐち南があり、必要がある時は連携がとれる。</p>	<p>グループホームから在宅へ移行する希望者がある時は地域支援センターと協働していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者がそれぞれ主治医を選択し往診受診している。</p>		<p>緊急時、日中夜間を通じて訪看、主治医と常にすばやい対応が出来る様になっている。</p>
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者各々の主治医の往診時に連携を取り、家族も交え必要時には専門医の診断・治療につないでいる。</p>		
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>グループホーム開設以来、週1回訪問看護師による健康管理実施、緊急対応を含め職員も気軽に相談するとともに病識を深めている。</p>		
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>家族と職員は連絡を密にし、医療関係者と早期退院に向け連携している。</p>		
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期ケアの取り組みは契約時に説明し心身の状態変化のある都度家族、主治医と話し合い必要な方針を全員で共有している。</p>		<p>ターミナルに向っては利用者、家族と医療関係者と意思確認を繰り返し行い、最善を尽くす。</p>
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>在宅で可能な範囲の医療で終末期ケアに取り組んでいる。看取り加算申請し医療関係者と連携している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人、家族の意向により住み替え希望がある場合、グループホームの本人情報は新しい居住先へ提供している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その人の誇りを損ねる事のない様に職員間で言葉、態度、記録の取扱いにも気をつけている。</p>		
<p>51</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>聞こえにくい利用者には筆談で対応。納得、理解して頂ける様に繰り返し説明する。表現しにくい利用者にはペースを合わせてゆっくり説明している。</p>		<p>帰宅願望の為外出される方には、一定の距離を保ち見守りする。近隣住民からの協力もある。</p>
<p>52</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、入浴、行事等の声かけはするが、本人の意思を尊重し、その人のペースに合わせて対応する。</p>		<p>その人らしい暮らしを大切にし、清潔、体調面には日々確認しながら支援する。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の使い慣れた化粧品を使用したり、服を選びにくい利用者は職員と一緒にする。理容は行きつけの店に家族と一緒にいく方もある。最近は近隣の美容院を利用する利用者が多い。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとって何が出来るか見極めて声かけ、職員と一緒にしてもらう。献立表はあるがユニットの利用者の好みに合わせて変更したり工夫している。		盛り付け等簡単な事をしてもらう。食器洗い、拭き等してもらう。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒は家族が購入した物を預り、希望時に提供する。おやつは利用者と手作りを提供する事もある。		主治医より生野菜、果物中止の方には代替品を提供し、個々に状態を考え提供する。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンにより、声かけトイレ誘導している。排泄自立で失禁のある方は、季節に応じて夏はかぶれ防止の為に綿下着、布パンツで対応する。		紙オムツをパット、ワイド、レギュラーと使い分け、利用者にあった支援を行っている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者本人の希望に応じるが入浴嫌いの方には声かけに工夫する。家族の協力を得る方もある。		気持ち良く入浴していただく為の工夫と介助に気配りし支援する。その人に合った声かけをする。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転される利用者に対する工夫と対応を考えて行なう。		夜間睡眠がとれるように足浴をする。日中の過ごし方を利用者と共に考える。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事・お茶の時間を生活リズムとしてゆっくりしたそれぞれのペースを支援している。併設特養での行事に参加したり、自分自身のペースで散歩したり、話の花を咲かせている。家族、知人の来訪も時間制限なく勤めている。		生きがいになる何かを見つける為に利用者と共に過ごせる時間を作る。


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		<p>外出する人は決まっているが、機会を作って外に出られない利用者にも勧めて行きたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		<p>季節、記念日等手紙を書く習慣を希望に応じて援助したい。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		<p>いつでも好きな時に来て、泊まる事も自由にできる。</p>
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		<p>利用者の意思を尊重し職員全員が支援している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関は自由に出入り出来る。センサーの設置はある。東側と西側の非常口は止め金で利用者自身で開閉出入り自由になっている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	出入口にブザーセンサー、鈴の音で利用者の所在や様子を把握している。		外出時、一定の間隔を保ち見守り、帰り喫茶店により休憩をする。地域の住民の協力で帰って来ることもある。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬類は現在自己管理できる利用者がいないため事務所で一括管理している。預り金、保険証は一括して金庫で保管している。お金の出し入れは出納帳に記載。裁縫箱、ハサミ、爪切り等利用者の状態に応じて管理していただく。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、事故等発生した時は、ひやり・ハット事故報告書を作成し職員、関係者で情報交換し再発防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	新人職員にはマニュアルに基づいて指導する。利用者の心身の状態変化、ターミナルケアについて随時ミーティング、会議で情報の確認をする。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を実施。日勤、夜勤時を想定し行なっている。		夏まつり等で近隣住民との交流を深めているが常に発信は必要である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人の意思を尊重し、あるがままを受け入れ、自立支援と起こり得るリスクについて機会ある毎に家族と話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は観察力、感性を磨き利用者の変化に敏感になるよう努めている。医療的な変化があれば、バイタルを測り訪看、主治医に報告する。日々のミーティング、個人ノートで情報の共有を行なう。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほとんど利用者が何らかの持病があり、職員は病識と薬の目的、副作用を知るように努めている。下剤を服用時はその後の排泄確認もする。		認知症がすすむと服薬する事が難しい利用者もある。家族、主治医と話し合い、本人にとって最善策を考えて生きたい。
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩の声かけ、出来る範囲で身体を動かす工夫をする。ヨーグルト、牛乳等提供して排便コントロールできる方もある。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施している。義歯の方、自分で出来ない方には部分的に各々に合わせた支援をしている。年8回歯科衛生士の口腔ケア指導を受けている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物が片寄らないよう、見守り声かけをする。それぞれに合わせた大きさにして食べやすい工夫をする。水分補給はいつでも出来る工夫している。嚥下の悪い状態時はトロメリン、水ゼリー等で対応する。献立は1週間分栄養士が立てている。1日1300カロリー。		体調不良の利用者は食事、水分量を別紙に記録し1日の摂取量を把握し情報を共有し工夫している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を毎年利用者、職員共受けている。感染症予防対策マニュアルを作成し徹底した取り組みを行なっている。又、寝具の熱処理を年2回行なっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は栄養士が作った献立表に基づき業者より直接配達がある。調理器具は食事担当、夜勤者で消毒する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	住宅街に有り、子供達の声も身近に感じ利用者も慣れ親しんでいる。出入口にはセンサー音で、施錠することなく確認できる。鉢植えの植物、小魚を飼って心なごむ雰囲気を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、円卓上に花を飾る等空間を和ませる工夫をしている。すぐ横では調理の音、匂いも伝わり生活感がある。		1F, 2F床の汚れが目立つ。しみ取り、清掃を順次行なっているが、しみになりやすい素材のため上手くできていない。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに円卓を複数設置し、椅子の移動を行い、利用者が使い分けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのある家具を部屋に置きテレビ、カセットデッキ等で音楽を楽しむ利用者もあり、利用者が自由に過ごされている。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>訪室毎に空調温度設定を確認して換気扉等の活用に努めている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の必要に応じて、工夫した環境を整備している。階段、廊下には手すりをつけている。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者の出来る事、出来ない事を見極めて洗濯干し、たたみ、食事作りの手伝い等職員と一緒にこなう。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先に植木、メダカ等が利用者家族の協力もあり、和みの空間がある。水やりを日課とする利用者もおられる。</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない</p> <p>利用者同士の日々の会話、利用者職員の何気ないやり取り、家族の情報から総合的に判断し、その人らしい生活を模索している。利用者の心身の状態も変化することから常に観察し意向を知るよう努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>ゆったりと過ごす場がないと認知症の方は落ち着いて生活できないと思う。専門職としては、時間の使い方、場面設定等意図的にすることもある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>本人のペースを大切に生活支援している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>認知症高齢者は全力投球で日々過ごしておられる。混乱がみられる時に職員の支援で安心されることもあり、混乱を繰り返すこともある。馴染みの利用者、職員、住環境でゆったり生活しておられる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>グループホーム周辺を散歩する方もおられる。帰る希望があるが行先が解からなく方もおられ、日中は施設していないので、自由に出入りできる。夜間は21:00にフェンスは施設するがグループホームは内から施設している</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>住環境は建物はバリアフリー、周辺には同法人の事業所があり一般住宅にも隣接し比較的安全。健康管理は週1回の訪問看護、各々の主治医の往診、受診を受け職員とも情報共有できている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>利用者のその時の状況把握、要望にまず耳を傾け、想いを汲み取ることから始める。具体的な要望があれば家族とも話し合い勧める。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない</p> <p>グループホーム利用に至るまでの家族関係、入居されてからの本人、家族の変化、問題等いろいろある。職員、特にリーダーは事情を聞き相談を受ける立場にあり、信頼関係を築いている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>現状では地域の馴染みの方々が訪ねて来る機会は少ない。家族、地域の方々の気遣いで足が遠のくこともある。認知症があるなしに関わらず、心身の低下に伴い、従来の暮らしの継続は難しい現状。</p>

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	H18年4月介護保険法改正後、運営推進会の参加者を地域住民、家族に呼びかけた。実際に機能したのはH19年5月。第1回運営推進会議はメンバー全員とワザンバーとして家族、職員も参加し意見交換した。事業所からH18年度の事業報告、地域代表から地域活動、家族からその想い等話し合った。次回は9月22日。テーマは看取り、地域・家族の一員としての利用者。
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	認知症介護について日々考えながら介護している。利用者の心身の機能低下に伴い、職員、特に夜勤者の緊張、ストレス度は高い。職員全員のチームワーク、関連事業所、家族と連携し、仕事を客観的にとらえる視点が大切だと認識している。懸命に生活しておられる利用者からの多くを学び糧としている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	入居後しばらくは混乱がある方も日数の経過と共に落ち着いてこられる。重度になり発語なく、自立で生活行為できない方も介護により現状維持が長く続いている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	行事のとき、日常の来訪時に本人の状態をお伝えし、ケアプラン、モニタリングを通じ家族の以降を聞き取る機会にしている。家族から直接サービスの改善提案もあり、利用者の生活を一緒に考えることができている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設以来医療・看護の連携体制をとり、H18年4月から看取り加算を申請した。
認知症高齢者が馴染んだ環境の中で最期まで生活者として暮らせるよう支援している。
そのために家族・医療・看護との連携を蜜にしている。
今後は認知症高齢者の生き方、看取りから学んだ経験を地域へ発信することが使命だと考えている。